

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0347
施設名	こひつじ保育園
施設所在地	町田市原町田 2-11-5
法人名	社会福祉法人こひつじ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

- ・木々の色の变化（紅葉）など、季節の移り変わりの体験では多くの感動が見られる。
- ・「稲刈り」や「さつまいもほり」では、収穫の喜びを感じたり、土に触れたり、どこに、お芋があるのか想像したり探す楽しさを体験できる。
- ・色々な動物とふれあい、鳥や蛇、うさぎ等の特徴に興味を持つ。
- ・自分の実体験を思い出し表現したい気持ちが見られる。画材や様々な素材で表現の手法に興味を持ったり、自分の実体験を表現により振り返る。

2. 活動スケジュール

- (1) 稲刈り : 10月
- (2) 園外保育（自然体験：秋・春）：10月、11月、12月、2月、3月
- (3) 園庭遊び（身近な自然、氷） : 11月、2月
- (4) さつまいもほり（4・5歳児）：11月
- (5) 移動動物園（どうぶつとのふれあい）：11月
- (6) 描画や版画、製作等：10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

●稲刈り

【準備】プランターでの田んぼ（6月に行った田植えを行った）、はさみ

【環境設定】園庭にプランターを設置して子ども達が自由に観察できるようにした。

●園外保育（秋、落ち葉等）

【準備】近くの森の事前の下見、落ち葉やどんぐりを入れるポーチ

【環境設定】事前の下見で落ち葉が多い場所へ移動し、自由に探索活動を行う。

●園外保育（春）

【準備】近くの森の事前の下見

【環境設定】子ども達が自由に遊んだり、探索できる場所に移動する。

●園外保育（動物園）

【準備】多摩動物園の園内マップで予め見学するエリアを設定しておく。

【環境設定】子ども達で移動できる範囲の場所に移動する。各動物エリアで楽しめるように時間配分する。

●さつまいもほり

【準備】バスでの移動、長靴、軍手、収穫した芋を入れる箱、汚れても良い服装

【環境設定】大きな畑の中で、自分の担当エリアを設定した。

●園庭遊び

【準備】おちば、水を入れたバケツ等（氷ができるように）

【環境設定】低年齢児がおちばに触れられるように、園庭に集めておく。子ども達が自由に拾ったり、踏んだりして感触が楽しめるようにする。氷については、天気予報で朝の気温をチェックし氷がはりそうな日の前日に準備をしておく。

●移動動物園

【準備】園庭整備、動物のえさ

【環境設定】クラス、グループを設定し、様々な動物とふれあえるようにする。

●描画やはり絵、製作等

【準備】ポンド、木片、カラーペン、えのぐ（ポスターカラー）、拾ってきた葉っぱやどんぐり等

4. 探究活動の実践

(1) 稲刈り : 10月

<活動の内容>

●6月の田植え(事前の活動)

プランターを使った田んぼを準備して、お米や田んぼについて子ども達に質問しながら田植えの説明をして田植えを一人ずつ行いました。

プランターは園庭に置き、子ども達がいつでも観察できるようにしました。

●秋の収穫

6月に植えた小さな苗が生長して、茶色い粒の中にお米が入っているお話をすると子ども達は驚いている様子でした。

一人ずつ、はさみで稲刈りをしました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

※6月の田植えの時の様子

泥は汚いと言って触ろうとしない子、冷たくて気持ちいいという子、汚れた手をまじまじと見ている子、人に付けようとする子、水道に走る子等、泥に触れて様々な行動が見られました。

田植えを行う際には、泥は汚いと言って小さい稲に触るのを嫌がる子、冷たくて気持ちいいという声、顔に塗っている子は泥パックだねと遊ぶ姿も見られました。

※観察での子どもの声

園庭に出れるときは、興味のある子は観察して稲の花を見る(8月)ことができました。「変わった花だね」「花卉はどこにあるの」「お米の形になってるね」「泥の中に生き物はいるのかな」「ヤゴがいる、トンボの幼虫だね」「すごいね」「暑くても、どこにも行けないんだね、暑すぎるから日陰に入れてあげよう」「お湯になってるよ」「枯れないかな」「水の上に浮草が浮いてるね」などの声が聞かれた。

10月には「粒ができてきたね」「重そう」「食べたいね」「これがお米?どこを食べるんだろう」「葉っぱが痛いね」「小鳥が来てる、食べているよ」

●稲刈り収穫

収穫の前に先生から命の大切さのお話をした。

「いただきます」はなんで言うのかな、命を頂くからと伝えると、「怖いね、でもお腹すくね」、「食べないと大きくなれないね」の声が聞かれた。

収穫時には「茎は固いね、切れないね、麦わら帽子だ」等の声が聞かれた。

収穫後、稲を乾燥させ乾燥後に保育室で、もみ殻をとり白い米粒を皆で見た。

「お米ってこんな風にできるんだ」「本当に食べれるのかな」…

一人ずつ稲穂を持ち帰った際は嬉しそうだった。

活動の様子



※振り返りをふまえた気づき

収穫の際に、先生からの「いただきます」はなんで言うのかな？の問いに対して、命を頂くからと伝えると怖いね、でもお腹すくね、食べないと大きくなれないね、と命の大切さや生きるために必要なことが何か、わかっているようだと感じました。暑い中、そこから動けないけどすくすく成長する稲を見て「大きくなったね」「おいしそうだね」と言っていました。自然が作り出す物、人間が作り出すもの、何かを作り出す楽しさに触れ合えたのではないかと、普段食べているものはすぐには生まれられないものとして意識できたと思います。田んぼという環境を作ることで虫や鳥が来ることも知ることが出来たようでした。

(2—1) 園外保育 (自然体験 : 秋、春) : 10月、11月、12月、2月、3月

<活動の内容>

秋の園外保育 (10月から12月) では、園の近くの「ふるさとの森」まで行って、製作に使う葉っぱやドングリを探したり、その場所で何をするか考えたりして探索活動を行いました。「森には何があるのかな?」、「木や葉っぱの形どうなっているのかな」などの問いの言葉を掛けながら、散策したり、落ち葉がいっぱいある広場で落ち葉の感触を楽しみました。

2月、3月の園外保育では、秋と同じ「ふるさとの森」に行き、気温や風、におい、生き物等秋、冬との違いを感じることを目的としました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

道を歩く、「端っこ歩かないと危ないよ、車来るよ、信号はよくみる、先生の話聞くよ」と言い合う姿が見られました。

現地まで行くと「葉っぱがいっぱいあるね」「においが違うよ」滑るね」「急な坂道だね」「森には何があるのかな?」、「木がある!」「広場がある!」「虫がいる」「木の形どうなってる?」・・・「あの木大きいね、木に穴が開いているよ。虫がいそうだね?」「蝶々いる、風の音が聞こえる」など感じたことを口々に言っていました。「歩くの大変だけどみんなで行くと楽しいね」等の声か聞かれました。

●秋、冬





●春の訪れ（3月）



振り返りをふまえた気づき

子ども達はあの森に行くと言っていました。何かあるのかわからない未知との遭遇に心わくわくし、森の中ではにおいや、音、鳥の声になんだろうあそこに見えるものはなあにと興味関心があり楽しんでいました。

交通ルールを知るには実体験が必要で、子どもたちの狭い視野の中で何が見えているのかを確認することができました。普段の気を付けることを再確認でき、園に帰ってから「あの木すごかったね、転びそうになったけど〇〇ちゃんが助けてくれた」、と他児との関係も深まった良い活動でした。

(3) 園庭遊び(身近な自然、氷) : 11月、2月

<活動の内容>

1、2歳児を対象に、園庭の木から落ちてくる葉っぱ(落ち葉)を、拾って、集めて、おままごと、見立て遊びに使ってみました。

2月には天気予報で早朝での気温が氷点下になる日の前日夕方にバケツに水を入れ園庭に置き、翌日どうなるか観察するようにしました。5歳児の子ども達には「明日は寒くなるから水をためて凍らせてみよう」と話し、翌朝にバケツを確認して、氷の感触を味わいました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

●園庭の落ち葉

「園庭の桃木の葉っぱは落ちてくるよ」「なんで秋にあると葉っぱが落ちるんだろうね?」「秋だから」、「(木が)服を脱いでいる」「寒くなるから」「集めて布団にしてみよう」「おままごとにして料理しよう」「ケーキ作ろう」「うどん屋さん」「おいしそうですよ」

拾った落ち葉を集めるために大きなビニール袋を用意して、ビニール袋を持っている先生のところに落ち葉を持っていきました。木から葉っぱ落ちてきたときは、ひらひらと落ちてくる様子を興味深そうに見ていました。

子ども達は、葉っぱ束ねたり、掴んだり、仰いでみたり、踏んだりと感触を確かめているようでした。

●氷

明日は今年一番の寒波が来るよとニュースで言ってました、聞いた、知ってる、寒いんでしょ、氷できるかなとの問いに、何したらいいかな、バケツに水入れてみよう、このぬいぐるみ入れてみよう、お花入れてみよう、氷に閉じ込めてみようと子どもたちが考えた、寒い夕方どこが凍るかな、何入れたらいいかなと北風の吹く中、水道から水を入れ考えている様子、寝ないで見ていたいな。なんていう子もいた。

●園庭での落ち葉拾い(秋)



●氷

0歳児の子ども達が氷に触れてみました。



幼児クラスの子ども達も氷に触れたり、氷がはっているか確認している様子です。



振り返りをふまえた気づき

●落ち葉

拾った落ち葉を先生に笑顔で見せにくる子どもの姿やひらひらと舞う葉っぱを見て喜んだり、追いかけたりする姿が印象的でした。また葉っぱの感触も味わっている様でした。

●水

水を外で作るにはどうしたらできるか、本当に凍るのか子どもたちはとても関心がありました。水だけではなく中に物を入れる発想は保育者にはありませんでしたが、「閉じ込めてみよう」「凍らせてみよう」と考えたのは、すごいアイデアだなと思いました。

次の朝。「どうなってるかな」と聞いてみんなで見に行くと透明な氷ができていて、「きれい」「ぬいぐるみが閉じ込められた」とお日様に向けて透かしてきれいだと眺めていた、冷たい冷たいと言いながら、氷を触ってはしゃいでいました。透けて見えるね、ガラスみたいと感動していた様でした。

(4) さつまいもほり (4・5 歳児) : 11 月

<活動の内容>

畑にて、子どもたちは、先生からサツマイモの話聞きしました。

「サツマイモはつると言ってお伸びて伸びてお日様の光を浴びて栄養を蓄えるんだよ。芋はどこにあるの問いかけに、「土の中」、傷つけると痛いから周りの土をモグラさんになって掘り出して下さい」。

先生の話の後、自分の担当のエリアでのサツマイモ掘りを始めました。

取れたサツマイモは、ダンボール箱に入れ園に持帰りました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

お芋は夏の太陽のパワーを蓄えて大きくなるんだよ、これから寒くなってくるからそのパワーを君たちはもらうんだねと伝えました。土を触りが苦手な子もいましたが穴掘りは楽しいようで、「先生お芋見えてきた」と大はしゃぎする子、「芋虫がいた」引っ張っても抜けずに抜けた拍子に尻もちをついてしまう子、重くて持てないとその場に座っている子、「すごいよ、こんなに取れたと5個もある、食べたいな、おいしそう」と喜んでいました。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。



振り返りをふまえた気づき

子どもが土を掘るのはなかなか大変でした。土の硬さ、砂と違いねばねば、くっつくようで大きい芋は抜けなく四苦八苦していました、芋の姿が見えるとその場から離れることもなく、とにかく取り出したい一心で土を何とかしようと指先で芋の回りをほじっている姿に可愛いなと頑張れと応援しながら一緒に掘って楽しめました。

(5) 移動動物園 (どうぶつとのふれあい) : 11月

<活動の内容>

動物とふれあい、小さい命があることを知る、優しさ、扱い方にをしり、感じる心を育てる。(ふれあい動物園)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

聴診器でうさぎの心臓の音を聞かせてもらいました。子ども達からは「生きてるね、早いね、どきどきしてるね」。等の声がありました。また小動物を見ながら「触ってみたい」「触れない」「少し怖い」「かわいい」「気持ちいい」「フワフワしている」「ぬいぐるみみたい」「歯がある」「毛が固い」と小動物を触っていました。へびについては、「皮膚はつるつるして冷たくて気持ちいい。首に巻いてちょっと怖いでも気持ちいい」と不思議な回答も聞きました。生きている動物に触れ合えて良い体験になりました。



振り返りをふまえた気づき

動物を飼っていること普段触ったことのない子の差が感じられた、自分より小さい動物に対してどのように接したらよいのか生きているんだと感じられたようだ。どの子も可愛い可愛いよかった。

(6) 描画やはり絵、製作等：10月

<活動の内容>

自然の物を使い見立てたりして形を作り発想を広げる。

① 木工（5歳児）

【準備】丸太 10~20 cm、木片、木の枝、葉っぱ、釘、ボンド、ドリル、金槌

顔を作る時どんなものを使ったら出来るか考えてみた。

紙ではなく、見えそうで見えない素材、円い物、顔にしたら面白い物を考えた。

丸太を使い、木片や枝を使い自分の顔に見立てて作る。

② 版画・描画（4歳児）、オブジェづくり（2歳児、3歳児）

版画・描画（カレンダー製作）では「葉っぱと遊ぼう」をテーマに製作しました。園外保育で取ってきた葉っぱにローラーで色をつけ版画にしました。葉っぱと、どんな事をして遊びたいか想像力をふくまらせてカラーペンで描き加えました。

オブジェづくりでは、園外保育で取ってきたドングリやマツボックリ、小枝を使って、思い思いに作品をつくりました。1歳児は、土台の白い粘土に好きな色の粘土を1色混ぜ、2色の粘土を手でこねて模様ができました。ドングリでデコレーションをして楽しみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

木工（5歳児）では「木の顔（木の幹や枝で自分の顔を表現）」を作りました。

はじめて金槌と釘を使いました。小枝は木工用ボンドで接着しました。丸太をのこぎりで切る所を見ると切れた瞬間「オー、すごい、怖い、切れた」と歓声がありました。丸太を寝かして、細かい木片を並べてみると、「これ目になるね」「私は笑った顔」「大きな口にしていっぱい食べる」「鼻は長い」「ピノキオの鼻、長いね」の声が聞かれました。ボンドでパーツをつける際にはすぐにくっつかないため、じっと押さえる子がいたり、「先生とれちゃう」とうったえ、「そしたら取れないように釘、釘で止めよう」と提案しました。釘を打つのは初めてなので、叩く、押し付ける子、細かくたたきと様々でした。一生懸命叩いて釘を打ち、顔が出来たら立てて頭の上を飾ってあげよう、細かい木片を積み重ねたり、枝を付けたり、葉っぱを付けたり、リボンにしたい、帽子にしたい、高く積みたい、髪の毛にしたい、と完成させました。

4歳児のカレンダー製作（版画・描画）、オブジェづくりでは、お散歩で取ってきた葉っぱにローラーで色をつけ転写した際は大喜びでした。テーマは「葉っぱと遊ぼう」で、葉っぱと、「どんな事をして遊びたいか？」の問いをたて、集中して描いていました。作品をみると想像力をふくまらせて描けたと思います。

オブジェづくり（3歳児）では、園外保育で集めたドングリに色々な形や大きさのドングリがある、ということに気づいたようでした。拾い集めたドングリを使って、どのように並べようかな、上手に重ねられるかな、と工夫しながら楽しんで作っていました。

1歳児は、土台の粘土にドングリや小枝を刺すさいの感触を楽しめたのではないかと思います。

活動の様子





振り返りをふまえた気づき

木工では身近にある木について子ども達に聞いた際に、「木って重いね」「硬いね」「いい匂い」などの声が聞かれた。幼児期では自分で加工することはできないけれど、遊び道具としてはいろいろなものに使われていることが分かったようである。作品展では、お母さんに「これが僕の顔と釘打ったんだよ、カッコいいでしょ」説明していた。自分の頑張りや思いを保護者の方に伝えることができたことに成長を感じました。作品は立体的で個性的で面白いものができたと思いました。

5. 振り返り（全体をとおして）

<振り返りによって得た先生の気づき>

どの活動も当園では長年行ってきたものですが、意識的に子どもの声を聞くことや姿を捉えることで、子ども達の心（興味や、気持ち、やさしさ等）を感じることができたと思います。特に園外保育（ふるさとの森）では、夢中になって葉っぱを探して、先生に葉っぱを見せに来たり、子ども同士で葉っぱについての話をしたりと子どもの主体性を感じました。

また当園では、毎月課題の歌として季節にあった歌を歌っています。幼児クラスの子ども達は実体験と歌詞の内容の理解もできているように思いました。

保護者の方には活動の様子を玄関掲示スペースに掲示しました。お迎えの際に、子どもが「今日〇〇したんだよ。」など保護者に嬉しそうに伝えたり、小さな子どもでも写真を指さしたり姿が見られ、保護者の方々も「すごいね、こんなことやったんだ」等の声が聞かれました。親子のコミュニケーションに喜びを感じました。